



秋田県立 能代養護学校教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

1 現状

本校は、平成6年4月に開校した知的障害をもつ児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校であり、平成26年度には創立20周年を迎える。

現在の児童生徒数は、小学部25名、中学部25名、高等部38名の計88名が在籍しているが、地域外から通う児童生徒のために、寄宿舎を設置しており34名の児童生徒が利用している。

校地面積は69,114㎡と全国4位の広さである。この広大な敷地を利用して、稲作、野菜、果樹、園芸などの作業学習に力を入れている。平成23・24年度には県の委嘱を受け、「児童生徒一人一人の主体的な社会参加を育むキャリア教育の実践」をテーマに研究を進め、キャリア教育を踏まえた授業づくりや、「地域資源」を生かした小・中・高の系統的な教育課程の編成に努めてきた。高等部においては就労を意識したコース制（職業コース・生活コース）を導入しており、専門的知識、技能を修得する目的で介護職員初任者研修講座も開設している。他にミュージカル公演や、しののめ夏祭りなどの地域交流活動にも力を注いでいる。

2 課題

地域との共生を目指した学校づくりを進めるため、特別支援教育、特別支援学校に対する地域の認知度を今以上に高めていく必要がある。地元企業の進路開拓、地域の小・中学校に対する就学相談、就学支援など特別支援学校のセンター的な役割を担うための教職員の専門性の向上、児童生徒一人一人の自立と社会参加を実現するための主体性、自主性を育む教育実践の進め方が今後の課題である。

3 学校を取り巻く将来の状況の予測

本校で学ぶ児童生徒は能代山本地域のみならず、他地区、他県からなど広域にわたっている。また、地域の小・中学校における特別支援に係る教育相談や就学相談件数は増加傾向にある。これらのことから県全体の児童生徒数が減少していく中であっても、本校への入学・転学生は微増していくものと推測される。

また、今後は市町村の教育機関、医療、保健、福祉、企業などの関係機関との連携が強化され、地域における本校の果たすべき役割はますます重要になると思われる。

II 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

1 目指す方向性

- (1) 「この子らは世の光なり」を心として、子ども一人一人の尊厳を重んじ、愛情に満ちた教育を推進します。
- (2) 子どもたちの日々生き生きとした生活づくりを目指し、ともに生きがいのある教育を推進します。
- (3) 心豊かで、互いに愛と信頼で結ばれ、内外に開かれた教育を推進します。

2 学校像と児童生徒の姿

○ 目指す学校像

- (1) 一人一人のニーズに最適な教育を追求し、新しい時代を拓く学校を目指します。
- (2) 地域と共に歩む魅力ある開かれた学校を創造します。
- (3) 子どもたちの考えや心の内面をひらき、目を外に開かせる教育実践を推進します。

○ 目指す生徒像

明るく元気な子、仲良く助け合う子、喜んで働く子を育てます。

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

目標1 児童生徒の自立と社会参加を目指した教育課程の編成

- 小・中・高等部12年間を見通した教育内容・方法の改善

<小学部> 基本的な生活習慣の確立、生活意欲の育成等の指導に努めます。

- ・ 日常生活の指導、自立活動の時間の指導内容の充実

<中学部> 作業学習や地域貢献活動を重視した地域と触れあう教育実践を展開します。

- ・ インターンシップ、能養ショップ、作業作品の寄贈等

<高等部> 確かな進路実現を目指して、現在のコース制の再編を検討します。

- ・ 職業コースから一般就労コース（介護福祉分野・農園芸分野・木工分野）への改編を検討。

<寄宿舎> 個別の生活支援計画に基づく教育とのタイアップによる支援を強化します。

目標2 一人一人の進路希望を達成するための教育活動の充実

- 地域資源を生かした「能代養護学校版キャリア教育」の確立と実践

① 小・中・高等部の系統的進路指導計画を作成します。

② 全学部のパロテ者を対象に継続的な進路指導ガイダンスを行います。

③ 作業学習においてボランティア人材などの外部講師を活用したクオリティアップ研修を実施し、製品の品質向上と製作に係る技術力向上を図ります。

④ 農産物加工食品（果物・小豆・おかゆ等の缶詰）、木工製品などオリジナル商品を開発して、アンテナショップ等での販売を展開します。

⑤ 商工会議所と連携し、地元企業への学校理解を図るため、企業による学校視察会を定期的、継続的に実施します。

⑥ 職場実習受入企業を拡充し、デュアルシステムによる進路実現を図ります。

〔推進指標：希望進路実現達成率100%、一般就労率、現状の20%から50%へ〕

⑦ 介護職員初任者研修など専門的資格取得に向けて、高校との合同学習を行います。

目標3 地域資源を活用して、地域と学校が共に学び支え合う教育活動の推進

- 共生社会を目指した地域における多様な教育活動の推進

① 地域の小・中学校・高校との交流及び交流学習を継続、深化します。

- ・ 小学部と向能代小学校、中学部と能代西高校との交流学習等

- ・ 東雲中学校、能代松陽高校、能代工業高校等とのイベント交流

② 地域の人材や地域資源を活用した特色ある教育活動を展開します。

- ・ 経験豊富な人材を活用した魅力ある授業や教育活動

- ・ 全校体制で取り組む能代養護ミュージカル、児童生徒が企画運営するしののめ夏祭り

③ 地域に貢献する活動を推進します。

- ・ ゴールド人材センター（仮称）を設置。草刈り、雪かき等のボランティア活動

④ 学校開放を積極的に行い、マスメディアや新聞（生徒会瓦版）、学校HP等を活用して特色ある教育活動をタイムリーに発信します。

⑤ 地域の福祉施設等との合同防災訓練を実施します。

目標4 地域におけるセンター的機能の発展

- 地域における特別支援教育センターとしての機能の充実・強化

① 地域の小・中・高校等の要請に応じた支援や、就学相談、就学指導などに関する情報提供や支援を行います。

② 能代市特別支援連絡協議会（平成25年度開設予定）に参画し、地域における障害児や保護者への就学相談を含む情報提供に努めます。

③ 地域の幼・小・中・高校の教員を対象とした特別支援教育講座を開催します。

④ 校内・校外での授業研究、パワーアップセミナー、地域支援コーディネータ研修等を通して教員一人一人の専門性を高めます。